

2025 年 9 月 18 日

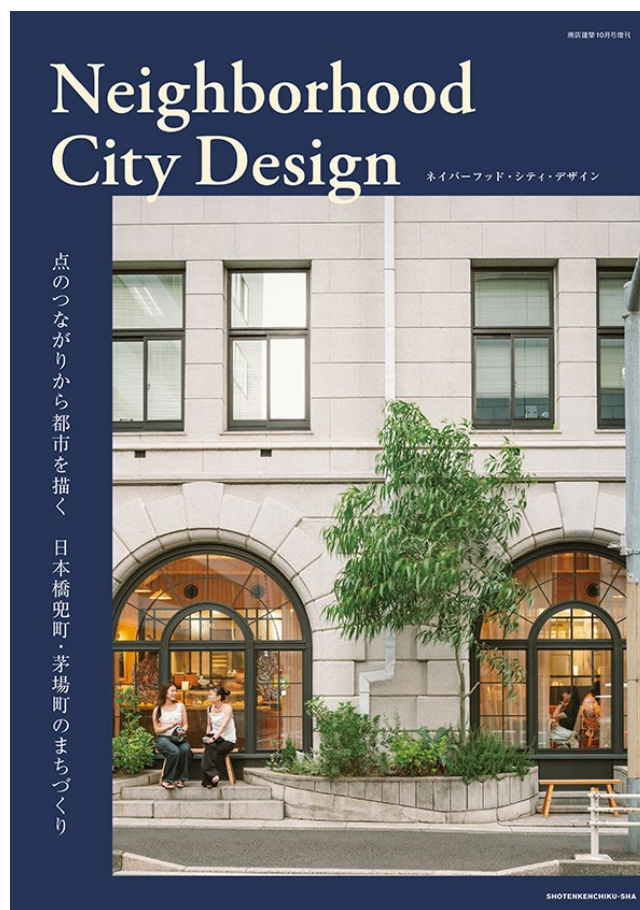
各 位

平和不動産株式会社

商店建築増刊号「Neighborhood City design 点のつながりから都市を描く 日本橋兜町・茅場町のまちづくり」 が 9 月 18 日発売

『商店建築』増刊号で、日本橋兜町・茅場町の街づくりについて
一冊まるごと紹介されました

平和不動産株式会社（本店：東京都中央区、代表執行役社長：土本 清幸、以下「当社」）が進める日本橋兜町・茅場町エリアの街づくりの取り組みが、2025 年 9 月 18 日発売の建築・デザイン専門誌『商店建築』にて一冊まるごと特集掲載されました。



証券の街として日本経済を支えてきた日本橋兜町・茅場町。当社は、金融街という顔をもつこの歴史あるエリアに、カフェやレストラン、ギャラリー、ホテルなど、多様なコンテンツを積極的に誘致し、働く人・暮らす人・訪れる人が心地よく過ごせる街へと進化させてきました。

さらに、このエリアの価値を高め、都市としての新しい可能性を広げるため、歴史ある建築や街路を生かしながら、現代の感性を取り込むデザインアプローチを重視し、街全体に多様な過ごし方や文化を育む場づくりを目指しております。

本特集では、こうした当社の街づくりの思想を、空間デザインや企画の視点から詳しく紹介いただいております。個性豊かな店舗や複合施設のデザイン事例に加え、当社の社員およびパートナー企業であるメディアサーフコミュニケーションズ株式会社や株式会社イートクリエイターへのインタビューを通じて、それぞれの立場から語られる「街づくり」に迫ります。

当社の街づくりを通じて、日本橋兜町・茅場町が歩み始めた新しいストーリーを、ぜひ誌面でご覧ください。

2025 年 10 月 7 日開業予定 キャプション by Hyatt 兜町 東京

グローバルブランド「ハイアット」とのパートナーシップを通じて海外を含む多様なゲストを迎え入れる一方で、重視したのは“ホテルで完結しない滞在”。

地域とつながり、街全体を体験してもらうための多層的な仕掛けやデザインについて、詳しく紹介しております。



建築・都市計画・空間デザイン・インテリア・設備・ランドスケープ・キャプション by Hyatt 東京 兜町。この建物は、丸の内線・有明線が交差する駅である。ここには、100年以上の歴史を持つ老舗旅館が、2025年10月7日に開業する。この建物は、丸の内線・有明線が交差する駅である。ここには、100年以上の歴史を持つ老舗旅館が、2025年10月7日に開業する。

都市空間へ木の魅力を発信する 木造ハイブリッド構造

「キャプション by Hyatt 東京 兜町」は、ハイアットによる新たなライフスタイル型ホテルサービス事業として、日本橋兜町に計画された。古くより日本の伝統を継いだこの地は、近年では歴史的な高層ビルやホテルが建ち並び、新しい建築物が建ちあがりつつある。また、この地は、歴史的な高層ビルやホテルが建ち並び、新しい建築物が建ちあがりつつある。

歴史的な高層ビルやホテルが建ち並び、新しい建築物が建ちあがりつつある。また、この地は、歴史的な高層ビルやホテルが建ち並び、新しい建築物が建ちあがりつつある。

歴史的な高層ビルやホテルが建ち並び、新しい建築物が建ちあがりつつある。また、この地は、歴史的な高層ビルやホテルが建ち並び、新しい建築物が建ちあがりつつある。

10 月初旬開業予定 木造新築ビルの新たな可能性に迫った「prewood」

狭小地において、将来的な移築を前提とした分解可能な都市木造、「prewood」についても誌面でご紹介しています。

建設業界が抱える CO₂排出や職人不足といった社会課題に対して「分解のための設計 (DfD)」や「モジュール化」を取り入れ、循環型の街づくりを目指しました。木造ファサードが象徴するサステナブルな思想と、その実現に向けた設計プロセスの詳細についてぜひ誌面をご覧ください。



木造建築の設計段階から、解体・再構成可能な木造建築の計画、構造を「prewood」に設計した。解体・再構成可能な木造建築の計画、構造を「prewood」に設計した。解体・再構成可能な木造建築の計画、構造を「prewood」に設計した。

巨大な都市に一石を投じる
「分解可能な都市木造」

prewood

所在地 東京都中央区日本橋本町1丁目6-13
設計 VIVID 林浩吉 中澤智行 伊藤健太 山手歩
施工 株式会社 / pre 建築・設計・施工
写真 トリノ社
撮影 伊藤健太 伊藤健太

本プロジェクトは、狭小地としての活用から、都市を再構築する「prewood」において、都市的な移築を前提とした「分解可能な都市木造」の開発を目指したものである。

このプロジェクトが実現するのには、従来の建築業界が抱える二つの社会課題、環境問題と職人不足問題の解決が、両方に限らず、建設業界が抱えるCO₂排出量の約70%を占めている電機が、建てて壊して廃棄するといった従来の建築から、循環型を実現し、

家を再構築する循環型経済への移行が求められている。また、都市に於いては、この都市で最大の課題は、職人の減少であり、デジタル化などによる生産性の向上が課題となっている。

これも二つの課題解決に当たって、都市を再構築する「prewood」において、都市的な移築を前提とした「分解可能な都市木造」の開発を目指した。このプロジェクトが実現するのには、従来の建築業界が抱える二つの社会課題、環境問題と職人不足問題の解決が、両方に限らず、建設業界が抱えるCO₂排出量の約70%を占めている電機が、建てて壊して廃棄するといった従来の建築から、循環型を実現し、

家を再構築する循環型経済への移行が求められている。また、都市に於いては、この都市で最大の課題は、職人の減少であり、デジタル化などによる生産性の向上が課題となっている。

これも二つの課題解決に当たって、都市を再構築する「prewood」において、都市的な移築を前提とした「分解可能な都市木造」の開発を目指した。このプロジェクトが実現するのには、従来の建築業界が抱える二つの社会課題、環境問題と職人不足問題の解決が、両方に限らず、建設業界が抱えるCO₂排出量の約70%を占めている電機が、建てて壊して廃棄するといった従来の建築から、循環型を実現し、

「アップフロントカー」だけでなく、解体・移築時に発生する廃棄物を活用（コンクリート・ブロックなど）を目的とした。このようにサステナブルな取り組みの徹底として、木のファサードの解体・移築時に小さく解体することで、巨大な都市に対して一石を投じた。

（林浩吉 / VIVID）

リノベーションを通じたまちづくり

当社は、歴史ある建物を生かしながら、現代の感性を加えたリノベーションによって街の魅力を再構築してきました。リノベーションによって誕生した店舗について、ぜひ誌面をご覧ください。



(写真左)1923 年築の銀行建築をリノベーションし誕生したマイクロ複合施設「K5」

(写真右上) 旧渋沢栄一邸跡地に建てられ、東京都選定歴史的建造物にも選定されている「日証館」をリノベーションし誕生した複合施設。カカオの香りが生まれる瞬間を体験できる「nib」と人の滞在と香りの揺らぎを柔らかく受け止め香りを浮かび上がらせる「Fragrance lobby」が一体空間に共存している。

(写真右下) 大手コンビニエンスストア跡地をリノベーションし誕生した、アジアの中の東京を体現する食とモノの複合型店舗「CASICA KABUTOCHO」

座談会：街づくりの裏側にある想い

店舗とホテル、そしてオフィスが、人の流れでつながることで生まれる新しい景色や体験。異なるフィールドで活躍するメンバーたちが集まり、それぞれが大切にしている視点を持ち寄りながら、“街を動かす”ために何を考え、どうかたちにしてきたのか、リアルなストーリーとともにお届けします。

Discussion

店舗とホテル、オフィスが
人の流れで結ばれる
「コトはじめ」が連なった
まちづくり

平和不動産
中島優人、佐藤未来、近藤大知

本書ではこれまで、日本橋兜町・茅場町につくられたさまざまな施設を紹介してきた。専断では、平和不動産でまちづくりを推進する担当者へのインタビュー記事掲載する。話を聞くのは、店舗の開発や誘致、イベントやメディア露出を通じた発信などを手掛ける佐藤未来さん、「キャプション by Hyatt 東京」(P.4)のプロジェクトを推進する近藤大知さん、FinGATEの整備から企業誘致、コミュニティづくりまでを行う中島優人さんの3人。さまざまな開発の経験から、エリアの将来まで、テーマは多岐に渡った。

文：編集長 中島優人 撮影：横山拓

兜町の文脈の上で
チャレンジが生まれる街を考える

——まちづくりを行う上での経験をお聞かせください。
中島 元々兜町には多くの証券会社が事務所を構えていたが、株式取引の電子化によって金融街としての中心性が薄れていきました。それを受けて2014年に「日本橋兜町・茅場町再活性化プロジェクト」を掲げたことが始まり。この中で、FinGATEや中島、佐藤開発は、

街を活性化するための役割を担っている。佐藤 株式会社電子化以前は、証券のように多くのビルを所有していたわけではなかった。しかし、街の中心性が失われていく中で、兜町で創業し、この地で長く事業を続けてきた金融会社として、街の能力を高めることが地域貢献であり、会社の成長にもつながると考えた。そうした思いの下、エリア内で所有する建物を増やし、それらを活用することで兜町らしきの再定義を掲げてきました。

——街の活性化や再定義に向けて、どういった人たちに兜町を認めてもらおうと考えたのでしょうか。
中島 その産業には時間を割けたようですが、結局として、この街が持っている文脈に沿った方向に立ち寄りました。東京国際金融センター構想を公表したタイミングでもあり、そこに連動しながら、兜町を新興資産運用会社やFinTechを中心とした金融系スタートアップの集積地にするべく、FinGATEはそうした層に向けた施設として計画されました。

佐藤 加えて、兜町は浜松町と緑の多い街であることから、沿線沿いの証券取引所や銀行、郵便局など、今でもスタートアップ企業をこの街で生み出してきた歴史を踏まえ、「コトはじめ」をキーワードに掲げました。金融においてはスタートアップ企業で、店舗開発においてはこれから独立する方や新しい試みを試みる店舗を誘致することにつながっています。
佐藤 目指したのは、ここでチャレンジしようと思っている人を応援するような街です。単純に店舗を増やすのではなく、一緒に街をつ

くり上げていくという気持ちを持っていただければ、この街からまちづくりができればと考えています。そのために、当社がどんな形で兜町のまちづくりに取り組んでいるのか、今後街ではどんなことを計画しているのか、FinGATEとは何か、ということを含めて説明して、共感してもらうことを重視しています。また、ここにしかない店舗を誘致することで、兜町が目的の地になることを目指しています。
——まちづくりに関する最新のデータ提供が楽しみです。

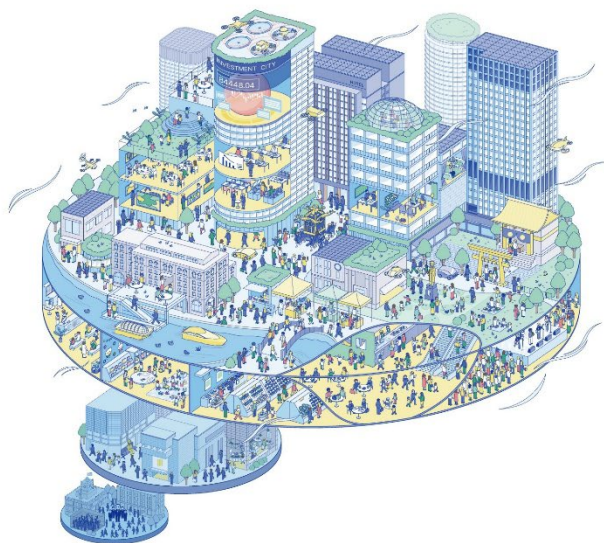
中島優人（左から2人目）
2019年入社。FinGATEの開発から入居者の誘致、イベント開催などを進めたコミュニティの構築など、FinGATEに関わる業務を担当している。

日本橋兜町・茅場町街づくりビジョン 2040

NIHONBASHI KABUTOCHO & KAYABACHO VISION 2040

投資を、そして感性を一步先へ。
この街から、新しい風を。

浜松町一帯がひらいた株式マーケットの街は、日本経済の中心で歴史を誇ってきた。この街がまとう「コトはじめ」の文化を未来につないでいくために、これからの日本橋兜町・茅場町は、投資と成長をライフスタイルに変えていく。金融をアップデートし、国内唯一のインベストメント・シティへ。そして、さらにひろがりのある街へ。もっと投資をカジュアルに、もっと街をカラフルに。多彩な個性が行き交い、クリエイティビティが高まる。化学反応が起こり、大小さまざまなイノベーションが生まれる。ビジネスだって、遊びだって楽しめる場を、みんなで作ろう。人々の感性を刺激する、世界どこにもない街づくりを、この街から。



● 日本橋兜町・茅場町 情報発信サイト

Kontext: <https://kontext.jp/>兜 LIVE!: <https://kabuto-live.com/>FinGATE: <https://www.fingate.tokyo/>

| 会社概要

当社は、我が国の金融マーケットの中核的機能・役割を担う東京、大阪、名古屋、福岡を始めとする証券取引所ビルのオーナーとして、1947年に設立され、場づくりを積み重ねることで街を彩ってきました。平和不動産グループの仕事に共通する根源的な価値は、さまざまな場づくりを通して、人々を惹きつけ未来に豊かさをもたらすこと。私たちはグループ一丸となって、魅力的な場づくりを展開します。

会 社 名：平和不動産株式会社

設 立 日：1947年7月

代 表 者：代表執行役社長 土本 清幸

本 社 所 在 地：東京都中央区日本橋兜町1番10号

会 社 H P： <https://www.heiwa-net.co.jp/>

以上

本件に関するお問い合わせ先

平和不動産 PR 事務局（株式会社イニシャル内）担当：横山、古屋、西野

TEL：03-6821-5730 FAX：03-5572-6065

MAIL：heiwa_pr@vectorinc.co.jp